



水土里ネット初瀬井路⑧初瀬井路(水土里ネット初瀬井路)



櫟木頭首工



初瀬疏水

information

初瀬疏水は、大分県でも古い歴史をもち、干ばつに辛苦する民を哀れみ、時の城主が開削した疏水である。

現在の疏水は、3回に渡って開削されている。その第一は、「国井出」として天正11年(1583)大友義統公により大分市宮苑より大分市大字生石までの間、約13kmが開かれた。第二は、「初瀬川」として慶安3年(1650)日根野吉明公により庄内町大字櫟木より大分市東院までの間、約16kmが開削された。第三は、「新井路」として元禄7年(1694)松平昭重公により挾間町大字向原より東院までの間、約7kmが開削された。この3つの水路を併せて初瀬疏水と呼ぶようになった。

中でも初瀬川は、完成までに延べ人数93,302人、延長139町56間とある。なお、驚くことは、これに要した日数が46日と短いことである。これは、各区別に請負区域が割り当てられ、必至の競争が展開されたと言われる。



お問い合わせ 大分市大字永興424
初瀬井路土地改良区
TEL 097-543-5686
FAX 097-543-5682